

「ケーブルタイル[®]」システムの施工マニュアル

ダイヤ・カーペット株式会社

(2010 年 2 月 1 日改訂)

はじめに

「ケーブルタイル」は、9.5mm又は19.0mmの厚さの中に、電力や電話、情報のケーブル線を配線できるOAフロアタイルです。「ケーブルタイル」システムは、床材に塩ビリサイクル材料から製造した「ケーブルタイル」と、仕上げ材に自己粘着性『タイルカーペット「カペタイル」』をご使用頂くことにより、天井高さを気にせず理想的なオフィス環境を創造するシステムです。

標準的な施工工程は次の通りです。

「ケーブルタイル」施工 → 配線施工 → タイルカーペット施工。

本「ケーブルタイル」システムの施工に際し、仕上げ材の「自己粘着タイプ」の施工については、『自己粘着性タイルカーペットについてのご注意』をご一読下さい。

Ⅰ. 「ケーブルタイル」の施工

1. 床下地の調整

「ケーブルタイル」施工の前に床の状態を確認し、不備の点がありましたら、次の通り調整を行なって下さい。

- (1) 床下地に不陸（面が平らでないこと）がある場合は事前に補修剤で不陸調整を行って下さい。
- (2) リニューアルでカーペットが敷かれている場合は、既存品を剥がして下さい。接着剤がクシ目を立てた状態の場合はケレン作業で接着剤を除去して下さい。プラスチックタイル、塩ビ長尺シートの場合は撤去せずに直接施工できます。但し、床面に破損している箇所があれば、補修して下さい。

2. 床の清掃及び養生

- (1) 床面のゴミやホコリを掃除機等で除去して下さい。
- (2) ワックス、グリス、油類などの汚れが有る場合は完全に除去して下さい。
- (3) 床下地に湿気がある場合は、下地を乾燥させて下さい。（下地水分は8%以下としてください）
- (4) すべりやすい床材の場合は、必要に応じて接着剤を塗布して下さい。この場合は下地床材の水分が8%以下になってから施工してください。これを外れると接着不良や異臭が発生することがあります。特に新たに工事した下地に施工する場合は十分に養生してください。また、セルフレベリング剤はアルカリ性が強いので、長期にわたってpHが高い場合がありますので特にご注意下さい。

3. 墨出し

部屋の寸法を測定し、先ずタイルカーペットの施工位置を決め、それにより割出した基準線より25cmずらして「ケーブルタイル」の敷き込み基準線を墨出しして下さい。

4. 「ケーブルタイル」の敷き込み

- (1) 通常は接着剤を塗布せずに、基準線より「ケーブルタイル」を置き敷きで市松貼りを標準にして敷き込んで下さい。
- (2) 敷き広げる時は、隣接する「ケーブルタイル」間の配線溝の切り込み同士が、前後左右合うように施工して下さい。

5. 壁際、柱際の処理

壁際や柱際の処理は、「ケーブルタイル」を寸法に合わせてカッターナイフでカットして納めて下さい。
(タイルカーペットの施工方法と同様に行ってください。)

6. 「ケーブルタイル」施工完了後、天井工事等ホコリの発生する工事がある場合は、ビニールシート等で養生して下さい。

II. タイルカーペットの施工

「ケーブルタイル」システムにはご説明しましたとおり、仕上げ材には「自己粘着タイプ」のタイルカーペットをご使用頂くことを基本としております。『自己粘着タイプ「カペタイル」』は予め裏面に接着剤を塗布した自己粘着性タイルカーペットですから、通常の置き敷きでの施工が可能です。

(仕上げ材として『自己粘着タイプ「カペタイル」』以外の、一般的なタイルカーペットをご利用になることも可能ですが、その場合は、「ケーブルタイル」表面に接着剤を部分的に塗布していただく必要がございます。その接着剤の塗布に当たっては、「ケーブルタイル」の付属部品施設箇所及び切り込み溝に入らない様に、十分にご注意下さい。)

1. 清掃

「ケーブルタイル」表面のゴミ、ホコリをきれいに清掃して下さい。

2. 墨出し

先に「ケーブルタイル」の基準線を出す為に割出したカーペットタイルの基準線で墨出しして下さい。
(「ケーブルタイル」の基準線より25cmずれた位置になります。)

3. 敷き込み

基準線に従ってタイルカーペットを「ケーブルタイル」上にまたぎ貼りで敷き広げて下さい。
市松貼り施工を標準とします。

4. ドア下処理

9.5mm厚タイプの「MS-9」はカーペットタイルを含めても約16mm程度の厚さですから、既存のカーペット押え金具(コーナーグリップへの字金具)を使用して処理できます。まず、「MS-9」の端部をカンナ、カッターナイフ等でカットしスロープを作り、カーペットタイルを「MS-9」より5～10mm程度長く敷き込んで、押え金具で処理して下さい。
(19.0mm厚タイプのMS-19は専用スロープを使用して下さい。)

5. 重歩行、台車の往来が予測される場所は、タイルカーペットのズレが発生する可能性がありますので、接着剤を「ケーブルタイル」側に少量塗布して下さい。

III. ケーブルの配線施工

1. 「ケーブルタイル」の配線は、配線計画図に従って配線に当たる切り込み部分をチョーク等でマーキングし、プライヤー、ペンチ、ドライバー等を使って切り込み部分を剥がすことにより配線溝をつくり、ケーブル線を敷設して下さい。ケーブル線敷設後、専用カバーを使用しケーブル線を保護して下さい。

2. 配線方法に関しての電気設計ならびに施工上については下記点にご留意ください。

- (1) 配線の設計及び施工に当たっては、先ず電力線は電気設備技術基準、電話線はNTT配線基準、情報線はOA機器メーカーの配線基準等に従って実施して下さい。
- (2) オフィス内のレイアウト負荷及び「ケーブルタイル」の配線容量を考慮し、事前に配線計画図を作成し、それに基づいて施工して下さい。
- (3) 配線計画に当たっては次の事に配慮して下さい。
 - ① ケーブル線の配線容量は別表に示すとおりで、これをオーバーしないようにして下さい。

「ケーブルタイル」の配線容量 (MS-9)

種 類		仕 様	外径(mm)	溝幅 12mm	溝幅 23mm
電力線	VVF ケーブル	600V 1.6mm 2 芯	6.2×9.4	1本	2本
		600V 1.6mm 3 芯	6.2×13.0	—	1本
		600V 2.0mm 2 芯	6.6×10.5	1本	2本
		600V 2.0mm 3 芯	6.6×14.0	—	1本
情報線	ハ'アケーブル	13-CS 0.65mm	4P 7.0φ	1本	3本
		PDS 0.51mm	4P 4.7φ	2本	4本
	同軸ケーブル	5C-2V	7.6φ	1本	2本
	将来対応	—	5.0φ	2本	4本
電話線		0.5mm	2P 4.0φ	3本	9本
		0.5mm	4P 5.0φ	2本	4本
		0.65mm	4P 7.0φ	1本	3本

「ケーブルタイル」の配線容量 (MS-19)

種 類		仕 様	外径(mm)	溝幅 33mm	KCC250 使用
電力線	VVF ケーブル	600V 1.6mm 2 芯	6.2×9.4	4本	25本
		600V 1.6mm 3 芯	6.2×13.0	4本	25本
		600V 2.0mm 2 芯	6.6×10.5	4本	23本
		600V 2.0mm 3 芯	6.6×14.0	4本	23本
情報線	ハ'アケーブル	13-CS 0.65mm	4P 7.0φ	8本	45本
		PDS 0.51mm	4P 4.7φ	18本	100本
	同軸ケーブル	5C-2V	7.6φ	8本	40本
	将来対応	—	5.0φ	2本	10本
電話線		0.5mm	2P 4.0φ	21本	115本
		0.5mm	4P 5.0φ	18本	95本
		0.65mm	4P 7.0φ	8本	45本

- ② 同一配線溝に電力線と電話線・情報線のケーブル線は共存させず、各々を25cm間隔にある別の溝に配線して下さい。
- ③ 原則としてFケーブル線と通信ケーブル線 (LANケーブル) の交差は避けて設計して下さい。

(4) 無理な配線にならない様に、関係者が事前に協議し、配線計画をたてて下さい。

(5) リニューアル時には不要のケーブルを取り除いて下さい。

- (6) 配線に当たっては、「ケーブルタイル」表面に配線ルートをマーキングペン等で記入し、電力、電話、情報の各ルートが識別できるよう名称を記入しておくこと後日の配線管理が容易になります。
- (7) ケーブル線には無理なテンションがかからぬよう内線規程に従って配線して下さい。溝巾、溝深さ、方向転換等により専用カバーがありますので、必ず使用してケーブル線を保護して下さい。
- (8) フロアダクト及び電線管からケーブル線を取り出し配線する場合は「ケーブルタイル」にスタッドカバー（STC-9又はSTC-19）を埋め込み施工して下さい。
- (9) OAタップの設置方法
ジョイントボックス（CJB）を使用することにより、Fケーブル線と棒端子付きOAタップ（COAT6）を簡単に接続できます。またFケーブル線の送り（ケーブル線延長）にもご利用できます。
＊MS-9にジョイントボックス設置の際にはジョイントボックスカバー（JBHC）をご使用下さい。
- (10) MS-9使用時にケーブル線の交差が生じた場合は下記のいずれかの方法で施工して下さい。
①フロアダクト電線管のホールを利用して交差して下さい。
②アウトレット継ぎプレートを使用している場合はアウトレット継ぎプレートの中を利用して下さい。
③「ケーブルタイル」とタイルカーペットの厚さ約16mmを利用して下さい。具体的には、カーペットタイルを切り取り、「ケーブルタイル」内にクロス配線キャップ（HCC）を埋め込み、その中で行って下さい。
- (11) ケーブル線の表面への取り出しは、仕上げ材であるタイルカーペットに切り込みを入れて、そこから行って下さい。その際タイルカーペットの端部より取り出す場合は二の字カット、内部より取り出す場合はT字又は十字カットして取り出して下さい。
- (12) 実配線で配線計画図のルートを変えた場合やレイアウト変更に伴い配線変更した場合は、配線図を修正しておき、以後の配線管理に役立てて下さい。

以上

「ケーブルタイル」「カペタイル」は登録商標です。